

## 越山若水

2021.9.11

9月11日は「公衆電話の日」だ  
という。町中で車を走らせている  
と歩道にあった電話ボックスが見  
えたものだが、近年めっきり視界  
に入ることがなくなっていたこと

に気づかされた▼1900年のこの日、東京の上野駅と新橋駅に設置されたことが由来らしい。当時の通話料金は5分15銭。コーヒー1杯が2銭ほどというから、かなりの高額。ちなみに昭和の高度経済成長期には公衆電話からの市内通話は時間無制限で1回10円と、隔世の感がある▼70年に3分10円としたが安かったため設置台数は増え続け80年代、93万台に達する(NTTグループ社史など)。その後は携帯電話の普及で減少に転じ2019年には15万台。総務省はまたNTT東西に義務付ける設置義務を緩和し台数を4分の1に削減するようだ▼設置台数がピークのころ、身近な電話ボックス内に絵を飾る市民運動が大野であった。共感した美術家鬮嘸さんの制作作品が旧大野市、旧和泉村の30カ所に掲示された。JR九頭竜湖駅前の電話ボックスには今も飾られる▼鬮嘸さん得意のレインボーカラーの作品だ。「そよ風の九頭竜湖」の放つ存在感には圧倒された。電話機は故障したために2年前、駅舎内に移されたとか。主役不在の電話ボックスには一抹の寂しさも覚えた。災害の多発時代を迎えて、数は減ろうが頼りになる公衆電話ではあり続けてほしい。